

2020年度 独創的研究助成費 実績報告書

2021年3月31日

報告者	学科名	看護学科	職名	准教授	氏名	實金栄
研究課題	高齢者のストレングス活用プロセスに関する研究					
研究組織	氏名		所属・職		専門分野	役割分担
	代表	實金栄	看護学科・准教授		老年看護学	実施, 分析, 考察
	分担者	井上かおり	看護学科・助教		老年看護学	考察
		原瀬愛理	保健福祉学研究科看護学専攻		老年看護学	分析, 考察
		小藪智子	川崎医療福祉大学・講師		老年看護学	実施, 分析, 考察
研究実績の概要	<p>S市の65歳以上高齢者を対象に調査票を2020年8月～12月に配布した。調査票は837部配布, 475人(回収率56.8%)から回収, 有効回答の304人(有効回答率36.3%)を分析対象とした。調査項目は基本属性(性, 年齢), 強み同定尺度(石村ら, 2015), 強み活用感尺度(高橋ら, 2015), 主観的健康状態, 経済的な暮らし向き, 友人交流, 隣人交流, 地域への信頼, 地域活動, 生活満足度(田原ら, 2000)であった。さらに看護師に高齢者の強みについてインタビュー調査を行った。</p> <p>まず, 強みの同定尺度の構成概念妥当性と信頼性を検討した。構成概念妥当性は構造方程式モデリングによる確認的因子分析を行ったところ, 適合度指標はCFI=0.937, RMSEA=0.035であり, 統計学的許容水準を満たした。信頼性はCronbach's α信頼性係数を求めたところ0.947であった。今後生活満足度を従属変数, 基本属性(性, 年齢), 主観的健康状態, 経済的な暮らし向き, 友人交流, 隣人交流, 地域への信頼, 地域活動を独立変数とし関連を詳細に検討予定である。インタビュー調査は内容分析により分析した。</p> <p>今後の論文等作成予定</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) S市への報告書の作成 2) 高齢者を対象とした強みの同定尺度の妥当性と信頼性の検討 3) 地域在住高齢者の生活満足度とストレングスの関連 					
成果資料目録	1. 小藪智子, 原瀬愛理, 井上かおり, 上野瑞子, 松田美鈴, 竹田恵子, 名越恵美, 實金栄(2021). 退院支援看護師が認識する自宅へ退院した高齢者のストレングス. 岡山県立大学保健福祉学部紀要. 27. 41-48					